



# 丹波育児院

～辻原光治とその周辺の人々～

第9回

## 波多野鶴吉と辻原

辻原光治とグンゼの創業者波多野鶴吉には二つの接点がありました。

一つは、キリスト教徒として「同期生」だったこと。当時三二歳の波多野と一六歳の辻原(友金)は、明治二年三月九日、須知会堂で同時に留岡幸助から洗礼を受けたのでした。

もう一つは「師弟」の関係だったこと。辻原が明治三年二月から一二月まで学んだ綾部の蚕業講習所は、波多野が中心となって設立したもので、所長は波多野自身がつとめていました。波多野鶴吉は、安政五年(一八五八)、何鹿郡延村(綾部市延町の大庄屋羽室家の二男として誕生しました。羽室家は、屋敷のある延村から福知山の石原まで「他人の

土地を踏まずに歩ける」ほどの富豪でした。鶴吉は、兄が家督を継ぐことが決まっていたので、八歳で中上林馬場村(綾部市八津合町)の波多野家へ養子に出されます。波多野家も戦国武将波多野氏の流れをくむといわれる名家でした。波多野家には鶴吉より二歳下の娘花(養那)がおり、のちに二人は結婚します。

鶴吉は一七才のときに家出して京都へ向かいます。京都・大阪で数学を学び、『啓蒙方程式』を出版して数学塾を開いたり貸本屋や塩田事業に手を出したりしますが、ごとく失敗に終わり、波多野家の資産を使い果たしてしまします。遊蕩がたたって鼻が欠けるという不名誉も蒙りました。明治一四年、二三才の鶴

吉は失意のうちに帰郷します。父は激怒しましたが兄の取りなしで花と共に羽室家に身を寄せ、翌一五年、小学校教員となりました。一九年、教師を辞して新設された何鹿郡蚕糸業組合の組合長に就任し、翌二十一年に機械製糸工場羽室組を創業しました。二三年に洗礼を受け、以後信仰に立つ事業家として活躍。二九年の郡是製糸株式会社設立に至ります。

## 京都府蚕業講習所

京都府蚕業講習所は明治二六年、現綾部高校東分校の地に創設され、全寮制の九ヶ月間で専門知識と技能を修得させました。辻原と同期の三一年度には二四名が卒業しています。

設立時、波多野は優秀な教師を確保するために奔走

し、キリスト教関係を通じて内村鑑三に熱心に交渉しました。内村の招へいは実現しませんでした。その紹介で同じ札幌農大出身の福原鉄之輔を招きました。

二代目所長渡辺義武も三代目所長岩坪時蔵も熱心なキリスト教徒でした。四代目所長大島好太郎は入学式の式辞で「君達入学生徒はゼントルマンとして教育される」と述べています。

キリスト教精神は郡是製糸にも引き継がれ、郡是は「表から見れば工場、裏から見れば学校」と称されるような社風でした。

## 田野の田中敬造

綾部市の南部に四方を山に囲まれた田野(綾部市田野町)という地域があります。波多野はよく「田野に二つの恩あり」といっています。

た。一つはキリスト教、もう一つは「天蚕」(山蚕)戸外で蚕を飼育する)でした。

田野には田中敬造(一八五五、没年不詳)がいました。庄屋筋の資産家に生まれた田中は、田野村を興そうと天蚕飼育に取り組んでいました。その視察途上の愛媛で偶然押川方義のキリスト教演説会を聞き、感銘を受けたのがきっかけで信仰に入ります。帰村した田中はきつそく村びとに教えを説き、丹波第一教会に伝道を乞い



急死した日の朝、嗣子林一(右)と写真に納まる鶴吉

ました。その結果、二十年

九月、村びと十人と共に堀貞一から洗礼を受け、田野会堂を設立、田野は綾部・福知山地方のキリスト教「発祥の地」となりました。

波多野はよく田中を訪ね天蚕(ヤマコ)か家蚕(カイコ)かで議論しました。波多野は田中の部屋に聖書があるのを見て一読してキリスト教に惹かれたといえます。田中の天蚕は結局うまくいきませんでした。波多野はそれを反面教師として新しい蚕糸業のあり方を学んだのでした。

事業に失敗した田中は明治二六年、留岡幸助を慕って北海道へ渡り、製材事業で成功して旭川教会の設立や発展に尽くし、留岡の家庭学校理事もつとめました。

## 三ノ宮出身の養子林一

鶴吉・花夫妻には子どもがなかったため、三九年、山内林一(一八八六〜一九六二)を養子に迎えました。

林一は三ノ宮村(京丹波町)の山内三郎兵衛の次男でした。花の母が山内家出身でしたから、花と林一とはいとこ同士になります。

林一は京都一中から早稲田大学へ進み、明治四四年に郡是に入社、昭和一三年から二十年間、社長として戦中戦後の困難な時代をくぐり抜けました。昭和二二年からは京都府選出参議院議員を一期つとめ、三七年に七五歳で没しました。

三ノ宮の山内家は辻原家同様、土佐藩山内家につながるともいわれる旧家で、三郎兵衛(一八四四〜一九一八)は、「孝子・慈善家」とし

て京都府知事から表彰を受け、死後には谷平吉撰による遺恩碑が建立されました。碑は現在三ノ宮農村クラウンドの一角にあります。

林一の実兄山内久間は正六年から三ノ宮村長をつとめ、その長男宗次は三ノ宮郵便局長となりました。現局長は宗次の孫に当たります。

山内家と辻原光治家は一キロ余りの距離ですが、林一は辻原より一二歳年少で、交流があったかどうかはわかりません。鶴吉は林一の幼少のころからしばしば山内家へ立ち寄っていましたから、その際などに辻原や育児院が話題に上ることがあったかもしれません。

## 鶴吉の急死、花の後半生

鶴吉は大正七年(一九一八)二月二三日、急死しまし

た。その日、鶴吉と林一は屋敷を共にし、林一がキリスト教への入信を誓約したので鶴吉は上機嫌だったといえます。その午後、在郷軍人会での講演中、演壇で倒れました。享年六十歳。葬儀には留岡幸助や押川方義も参列しました。花は昭和三年、九八歳まで生きました。「信仰で生き抜いた生涯であった」と林一は本社の朝礼で追慕しました。日曜には必ず丹陽教会へ歩いて通った母でした。幼くして両親と祖母を亡くし孤独を味わったせいか、花は岡山孤児院や家庭学校などへ多額の援助をしています。丹波育児院にも会員や寄付者の名簿が残っているれば、その中に鶴吉や花の名前があったのでは

ないでしょうか。(山下幾雄)